


**ガーナ野口記念医学研究所に対する日本の ODA プロジェクト 2 件の評価<概要>
(令和 3 年度被援助国政府・機関等による評価)**

<p>1 調査対象国:ガーナ</p>	 <p align="center">(写真: 西アフリカ諸国対象の研修)</p>
<p>2 評価者: The International Centre for Evaluation and Development (ICED) コンサルタント: Dr. David Ameyaw</p>	
<p>3 評価実施期間: 2022 年 1 月 6 日～2022 年 3 月 31 日</p>	
<p>4 評価内容</p> <p>(1)背景 ガーナでは、従来の感染症に加えて、2020 年 3 月以降新型コロナウイルス感染症が発生し、これらの対策は重要かつ喫緊の課題となっている。1979 年に日本の無償資金協力によって建設された野口記念医学研究所(野口研)は、日本の長年の無償資金協力及び技術協力により、研究能力等が向上し、ガーナのみならず西アフリカ地域における感染症問題に貢献する医学研究所となっている。</p> <p>(2)評価目的 野口研に対する日本の支援プロジェクト 2 件を評価し、評価結果から導き出された教訓を今後の支援実施の参考とする。また、評価の実施を通じて、被援助国の評価能力向上に貢献する。</p> <p>(3)評価対象 本評価は、過去 5 年間(2016～2020 年度)に実施された以下 2 案件を対象とする。 ア 2016 年度無償資金協力「野口記念医学研究所先端感染症研究センター建設計画」 イ 2018 年度第三国研修「西アフリカ地域における感染症対策のための実験能力強化」</p> <p>(4)評価方法 OECD/DAC 評価基準及び「被援助国政府・機関等による評価ガイドライン」(2021 年 4 月)に基づき、プロジェクトの妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続可能性の観点から評価を行った。 評価者は、文献調査、インタビュー調査、フォーカス・グループ・ディスカッション、オンラインアンケート調査による情報収集を行った。</p>	
<p>5 評価結果のまとめ(総括)</p> <p>(1)妥当性 ア 先端感染症研究センター建設は、野口研の役割に沿い、感染症対策分野の高度な研究に貢献している。また、この支援は、日本政府の対ガーナ開発協力方針とも合致している。更に、同施設は、新型コロナウイルス発生を受けて多数の PCR 検査を実施する等、新型コロナウイルス対応の観点からも妥当性が高い支援と言える。 イ 第三国研修参加者により、新型コロナウイルス発生を受けて感染症対策のための能力強化研修が時宜を得て実施されたことや適切な研修モジュールが高く評価される等、妥当性が確認された。</p> <p>(2)有効性 ア 目標とするアウトプットの大半が達成される等、高い有効性が確認された(インターン数の増加、外国人学生インターン数の割合の増加、研究プロジェクト数の増加、年間 BSL-3 ラボアクセス数の増加が見られた)。 イ 3 つのコースの研修への参加者数、新型コロナウイルスを受けた研修カリキュラムの適切な修正等から、本研修の有効性が確認された。最終研修報告書において、研修参加者は、知識及び技能の取得に関する有効性は 90%以上と回答した。</p>	

(3) 効率性

両プロジェクトについて、プロジェクト・マネージャーが野口研のコーディネーターと機材調達計画について調整する等事業実施を管理していたことから、事業の効率性が確保された。

(4) インパクト

ア 先端感染症研究センターは、前述のとおり人材育成数及びプロジェクト数の観点から効果があり、特に新型コロナウイルス発生後の PCR 検査数の観点からインパクトが確認された。更に、同センター建設により、ガーナ及び西アフリカ地域における黄熱病及びポリオのサーベイランスも可能になった。

イ 本研修は、ガーナのみならず、西アフリカ地域における人材育成という観点からインパクトが確認された。研修参加者に対するオンラインアンケート調査の結果、92.7%以上が研修は現在の仕事に良い影響を与えていると回答したことが確認できた。

(5) 持続可能性

ア 施設マネージャーが任命され、施設の計画通りの使用、機材メンテナンス、必要な修理が行われるよう管理していることが確認された。更に、施設側が自身の努力で資金を確保し、必要なメンテナンスや機材の交換が可能となっている。

イ 研修講師と研修参加者とがコンタクトを保ち、サポートを行っている。また、研修参加者が自ら研修を実施できるよう研修資料が共有されている。

6. 教訓・提言

(1) 教訓

ア 両プロジェクトとも、ガーナ政府の国家戦略計画と調和した内容であることがプロジェクト成功の鍵となった。

イ 両プロジェクトとも、開始フェーズで実施計画がしっかりと練られ、活動内容が明確となり、モチベーションが高まった。

ウ アセスメントを実施するだけでなく、その結果を意思決定に活かすことが重要。第三国研修において、研修参加者のコメントが翌年の研修内容の形成に活用された。

エ JICA の調達システムは効率的で、合意されたとおりのスペックの機材が供与された。野口研は、この調達システムを他のプロジェクトにも活用できる。

オ ガーナ政府を通じて実現されたプロジェクトであることから、ガーナ側政府関係機関との緊密な連携が両プロジェクトの円滑な実施につながった。

(2) 提言

ア 先端感染症研究センター建設計画

(ア) 施設や機材のメンテナンスのための予算確保が必要。施設による包括的なメンテナンス計画を策定し、実施する必要がある。

(イ) 活動状況のモニタリングを緊密に実施し、年次報告書を通じて関係者と共有するべきである。

イ 西アフリカ地域における感染症対策のための実験能力強化

研修参加者の専門分野や関心事項に応じて研修内容を構成すれば、研修参加者自身の業務に関連する科目の知識を得る時間を確保することができる。また、実務的な研修内容により多くの時間やリソースを費やすべきである。

(注) 上記は、評価実施者の評価報告書(英文)を基に和文要約したものです。